

問 前日の市長答弁に「少数意見というか反対者があった場合は真摯（しんし）に受け止め、誠意をもって対処する」という話があった。火葬場は多くの市民が終焉（しゆうえん）を迎える場所。公募制を採用した理由は何か。

市長 事業を進めるに当たっては間違いない、そして将来に決して禍根を残さないような形でぜひ進めていきたい。可能な限り全ての皆さんのご理解を頂けるように努力をしていきたい。市有地で適地がなかったら民有地から選定する「公募」をしました。

問 候補地の応募方法はどのような内容か。

市長 応募は、町内会長及び地権者代表の連名で、火葬場設置について基本的に了解を得ていることと地権者名、地番面積等が分かる書類を提出していただくことにしています。

適地と最終判断したのか

問 応募のあった志賀下塩ノ入地区を適地として最終判断したのか。

副市長 庁内に検討委員会をつくり、提案のあった4カ所の中から候補地一つを選択しました。

問 地元説明会の実態はどのようなになっているか。

市民経済部長 市主催で平成25年11月25日に志賀地区の集会所で地区住民の皆さんを対象に候補地選定の経緯、施設の概要等について説明を行いました。

問 志賀下塩ノ入地区は平成24年10月29日に正式に応募した。しかし、一部の地権者と一部の地域住民の同意を得ていないのが事実であり「合意を得たことから」と書かれた（応募の）文面には疑いがある。

市長 候補地として応募を頂くに当たっては、地権者及び地区住民の全員の同意を必要としているのではありません。



新火葬場建設事業

矢野 幸次

問 核家族化や人間関係が希薄になる中で、SOSが出せない人がいて、不幸な事故につながる可能性がある。それを防ぐためには、地域全体で支え合う「小地域福祉活動」が必要となる。平成22年12月議会をはじめとして、この小地域福祉活動について質問してきた。そこで、これまで取り組んできたモデル事業の成果を伺う。

健康福祉部長 地域支え合い体制づくり事業の中の地域活動拠点整備事業として、これまで3団体へ財政支援を行っています。その成果は、地域の高齢者が身近なところで福祉的なサービスを受けることができたり、高齢者等のコミュニケーションの場になっているものと考えます。

小地域福祉活動進めては

問 今後の方向性を伺う。

健康福祉部長 新たに地域福祉計画を策定します。その中で、本格的なモデル地区の指定に向け要綱などを整備して、この小地域活動の実践に向けて進めていきたいと考えています。

問 今後、地域福祉計画の中で町内会を一つのモデルにしながら、小地域福祉活動を進めていかなくはないかと思うが、どう考えるか伺う。

健康福祉部長 これまでもモデル地域の紹介をしてはどうかといったご意見を頂いていますので、町内会などを対象とした講演会や講座などを開設しながら、これまでモデルとして取り組んできた組織の状況と活動の状況を紹介できるのではないかと考えます。

問 これまでの議会で「千寿荘」の再建を具体的に質問してきた。そこであらためて、老人福祉センター再建の方向性を伺う。

市長 それこそ百まで元気でいてもらうというためには、そういった場所も必要だということは重々分かっていますので、次の具体的な計画の中で、ぜひ取り上げていただければありがたいと思います。

◎その他の一般質問
・被災者支援



高齢者支援

長田 忠広